

# 紀尾井だより

9/10 September / October 2022 [Vol.155]

紀尾井ホール室内管弦楽団  
2023年度 定期演奏会 速報

音楽でつづる文学5

源氏物語 一葵上と六条御息所一

日本デビューのドヴガンとともに！

トレヴァー・ピノック

いよいよKCO首席指揮者登場

連載

クラシック音楽のテーマに基づく3つの話

歌曲をめぐる3話







# 2023年度 定期演奏会 速報

紀尾井ホール室内管弦楽団(KCO)首席指揮者 トレヴァー・ピノックの第2期、2023年度定期演奏会の日程・プログラムが決定! 速報をお届けします。2023年度はピノックによる意欲的な2公演と、2020年来のコロナ禍で来日延期となったオーストラリア室内管の鬼才リチャード・トネッティ、バロックの声楽作品に造詣の深いオッターヴィオ・ダントーネが改めて出演します。ともにKCOのみならず日本のオーケストラでの指揮者デビューです。2023年度KCO定期演奏会について音楽評論家の寺西基之さんに聴きどころをご寄稿いただきました。

紀尾井ホール室内管弦楽団(KCO)は2022年度にピノックを首席指揮者に迎えた。これはKCOにとって大きな転換点といえるかもしれない。

言うまでもなくピノックは古楽畑出身だ。作品が書かれた時代の演奏法の歴史研究に基づき、伝統的に正しいとされてきた作品像を根本から見直す動きは、20世紀後半に古楽系の音楽家たちによって盛んになった。ピノックもそうした流れを作り出す大きな役割を果たしたひとりだった。この運動は近年HIP(Historically Informed Performance)として古楽系以外の演奏家にも及ぶ大きな潮流となり、欧米ではモダン・オケもそうした動きを積極的に取り入れるようになっていく。

残念ながら日本ではまだその流れが浸透しておらず、KCOも、過去に何人かの指揮者(ピノックも含む)によってその経験はしてきたものの、基本は伝統的なスタイルを軸に活動してきた。その意味で、今や穏健派といえるにせよピノックを



© ヒダキトモ

首席指揮者に据えたことは、これまでの枠を飛び出て今日の世界の音楽界の潮流に本格的に加わりうる前向きな姿勢の現れといえる。

2023年度定期演奏会のラインナップにはそうした姿勢がはつきり示されている。全4回のうち2回はピノックが受け持つが、残り2回も(元々コロナ禍で延期されていた企画ではあるが)今日の最先端を行く指揮者が登場する点、新たな時代を目指すKCOの意気込みが窺える。

まずピノックによる2回の定期のうち、第134回はモーツァルトとシューベルトの交響曲の組み合わせ。ピノックは以前にもKCOとモーツァルト作品で名演を披露しており、まさに彼のモーツァルトは定番といえる。注目はシューベルトの《ザ・グレイト》だ。ピノックのレパートリーはバロックや古典ものが中心だが、決してそれに留まることなく、ロマン派作品にも従来の解釈を洗い直した新鮮なアプローチを示す。その彼がこの大交響曲をどう聴かせるのか楽しみでならない。

その意味でさらに注目したいのが、ピノックによる第136回定期のメンデルスゾーン特集である。《鹿が谷の水を慕うがごとく》と交響的カンタータ(交響曲第2番)《讃歌》という合唱入りの大作が並



© ヒダキトモ

び、さらに冒頭にオラトリオ《聖パウロ》序曲が付くという長大なプログラムだ。これらの作品に込められたメンデルスゾーンの宗教感情を、ピノックは19世紀前半の時代に相応しい明晰なアプローチで歌い上げてくれることだろう。メンデルスゾーンの宗教作品への再認識を促す演奏会となることは間違いない。

一方第135回定期を振るのはオース

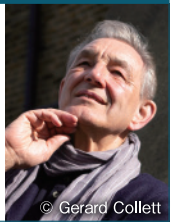
# 2022年11月1日(火)正午～ 紀尾井ホールウェブチケットで定期会員 新規募集開始!

第134回  
定期

2023 4/21(金) 19:00・22(土) 14:00

ピノック2期目の第1回は、ウィーンの古典派とそれを発展継承した前期ロマン派のセットです。モーツァルトの《ハフナー》は、22年度に聴くことができなかったモーツァルト・プログラムから。後半はシューベルト最後の交響曲。音楽的にも画期的で重要な位置付けにある作品です。

[出演]  
指揮/トレヴァー・ピノック  
[曲目]  
シューベルト:イタリア風序曲第1番ニ長調 D590  
モーツァルト:交響曲第35番ニ長調 K.385《ハフナー》  
シューベルト:交響曲第8番ハ長調 D944《ザ・グレイト》



© Gerard Collett

第135回  
定期

2023 7/14(金) 19:00・15(土) 14:00

自由な発想でチャレンジを続けるトネッティがKCOに新たな刺激をもたらします。ハイドンとモーツァルトの最後の交響曲にポーランドと日本の現代作品を合わせるというサウンドにも曲想にもメリハリあるプログラムをお楽しみください。

[出演]  
指揮&ヴァイオリン/リチャード・トネッティ [KCOデビュー]  
[曲目]  
キラル :オラヴァ 弦楽オーケストラのための(1988) [KCO初演]  
ハイドン :交響曲第104番ニ長調 Hob.I:104《ロンドン》  
武満徹 :ノスタルジア〜アンドレイ・タルコフスキーの追憶に  
モーツァルト:交響曲第41番ハ長調 K.551《ジュピター》



© Be Sullivan

第136回  
定期

2023 9/22(金) 19:00・23(土・祝) 14:00

23年度2回目のピノックはメンデルスゾーン・プログラムです。“目覚めよ!と我らを呼ぶ声あり”のコラールに始まりメンデルスゾーンらしい推進力が爽快な心沸き立つ《聖パウロ》の序曲、これに続いて《詩篇第42番》、そしてメインは大作カンタータ《讃歌》をご用意しました。ピノック芸術の神髄を存分にご堪能ください。

[出演]  
指揮/トレヴァー・ピノック  
ソプラノ独唱/ラウリーナ・ベンジューナイト [初来日]  
テノール独唱/マウロ・ペーター [KCOデビュー]  
合唱/紀尾井ホール室内合唱団(特別編成)  
[曲目]  
メンデルスゾーン:オラトリオ《聖パウロ》op.36 MWV A14～序曲  
メンデルスゾーン:詩篇第42番《鹿が谷の水を慕うごとく》op.42, MWV A15  
メンデルスゾーン:交響的カンタータ(交響曲第2番)《讃歌》変ロ長調 op.52, MWV A18



© Gerard Collett

第137回  
定期

2023 11/17(金) 19:00・18(土) 14:00

バロック音楽の世界的権威ダントーネがKCOとの舞台で日本のオーケストラ・デビューを果たします。得意のヴィヴァルディからハイドンまでのバロック・古典派音楽に、自身が編曲したボルボラの傑作協奏曲のアジア初演も加え、ダントーネの音楽世界をご堪能いただけます。また初来日となるデルフィーヌ・ガルーによる華麗なアジリタやバロック・オペラの名アリアの数々もお楽しみに。

[出演]  
指揮・ピアノ/オッターヴィオ・ダントーネ [KCOデビュー]  
コントラルト/デルフィーヌ・ガルー [初来日]  
[曲目]  
ヘンデル :歌劇《アルチーナ》HWV34～序曲、ガヴォット、サラバンド、アツァ・ブレーヴェ、アリア《復讐してやりたい》  
ヘンデル :歌劇《ジュリオ・チェザレ》～アリア《花咲く心地よい草原で》  
ヘンデル :歌劇《リナルド》～アリア《風よ、暴風よ、貸したまえ》  
ボルボラ/ダントーネ編:ピアノ協奏曲ト長調(原曲:チェロ協奏曲) [アジア初演]  
ヴィヴァルディ :歌劇《テンペのドリッラ》～シンフォニア  
ヴィヴァルディ :歌劇《救われたアンドロメダ》～アリア《太陽はしばしば》  
ヴィヴァルディ :歌劇《狂えるオルランド》～アリア《真暗な深淵の世界に》  
グルック :歌劇《ハリデーとエレナ》～アリア《甘い恋の美しき面影が》  
ハイドン :交響曲第81番ト長調 Hob.I:81



© Giulia Papetti



© Giulia Papetti

特別演奏会

KCO名曲スペシャル ニュー・イヤー・コンサート 2024

2024 1/26(金) 19:00・27(土)・28(日) 14:00

[出演] 指揮/ライナー・ホーネック

トラリアの鬼才トネッティ。ヴァイオリニストでもある彼は、まさに前述のHIP時代の申し子で、先鋭な解釈で作品に斬りこむ音楽家だ。ポーランドの作曲家キラルのミニマル風の「オラヴァ」と静かな暗い叙情に満ちた武満の「ノスタルジア」(弾き振りでの演奏)という2つの対照的な現代曲に、ハイドンとモーツァルトの最後の交響曲を組み合わせるといふプログラムも彼らしい。ハイドンやモーツァルトもピノックとは全く違う刺激的な解釈が楽しめよう。

そして第137回定期では古楽界を牽引するイタリアの指揮者・鍵盤奏者のダントーネを迎えて、KCOは今日の古楽の最前線のアプローチに挑む。やはり古楽界で活躍するフランスのコントラルト、ガルーを独唱者とするヘンデルやヴィヴァルディ、グルックのオペラ・アリア、ダントーネ編曲によるボルボラのチェロ協奏曲ピアノ版の弾き振り、そしてハイドンの交響曲第81番など、盛り沢山のプログラムであり、表情の濃やかなガルーの歌唱、鮮烈な表現で古楽の精神を蘇らせるダントーネの指揮がKCOとどのような化学反応を起すのか、興味が尽きない。

また定期以外では前首席指揮者ホーネックがニュー・イヤー・コンサートに登場、こちらはKCOがこれまで培った伝統的なスタイルが生かされることだろう。様々な演奏スタイルに対応しながら表現の幅を大きく広げつつある今のKCOからはまさに目が離せない。

文/寺西基之(音楽評論)



# 源氏物語

葵上と

六条御息所

「音楽でつづる文学」のシリーズとは

二〇一九年の五月に始まった「音楽でつづる文学」は、音楽と文学が結びついて織りなす豊かな表現をお楽しみいただくシリーズです。最初に取り上げた文学は、十三世紀半ばの鎌倉時代に成立した『平家物語』でした。シリーズ開始の翌年にコロナ禍となつてしまい、延期や順番の入れ替えを余儀なくされましたが、計四回の公演を催しています。プログラムに取り上げた作品のジャンルを公演に登場した順序であげると、平家、山田流箏曲、生田流箏曲、義太夫節、地歌、京舞、大和楽、



ほのお  
上村松園筆(東京国立博物館所蔵)

日本舞踊、幸若舞です。音楽のみでなく、舞や踊りもお楽しみいただきました。「音楽でつづる文学」のシリーズでは、さまざまなジャンルの作品をご紹介しますこと、軸に据えています。

## 新たに取り上げる文学は『源氏物語』

さて、シリーズの第五回、今年の十二月十七日の公演からは、『源氏物語』を取り上げます。紫式部(生没年不詳)による『源氏物語』は、十一世紀の初めの成立とされ、平安時代の文学を代表します。「桐壺」から「夢浮橋」までの五十四帖から成る長編の物語には、光源氏を中心に五百人近くの人物が登場し、華やかな貴族社会に展開する人間の心の機微が丹念に描かれています。『源氏物語』には、舞楽や管絃、催馬楽や朗詠など、音楽を扱う場面が多く登場するという特徴もあります。『源氏物語』は、美術作品、映画、能歌舞伎など、さまざまな分野に影響を与

えました。『源氏物語』の全文を読んだことはなくても、マンガ『あさきゆめみし』(大和紀作)の全巻は読んだことがある、

という方もいらっしゃるでしょう。『源氏物語』の影響から生まれた音楽作品も少なくありません。

## 葵上と六条御息所

「音楽でつづる文学」の新シリーズ『源氏物語』の第一回のテーマは、「葵上と六条御息所」です。『源氏物語』の第九帖・葵の巻に描かれる物語をとりあげます。

葵上は光源氏の正妻であり、六条御息所は光源氏を深く愛した女性の一人です。十六歳で東宮妃となり、姫君を生んだのちに、二十歳で未亡人となつてしまふ六条御息所は、二十四歳のときに、七歳年下の光源氏から熱心に求愛され、徐々に心を開いていきました。しかし、慎重で深く思い詰める六条御息所の性格に気疲れするようになった光源氏は、夕顔をはじめ、新たな女性たちに心が移っていきます。その苦しさから、生霊になり、光源氏が愛する女性たちに取り憑いてしまふのが六条御息所です。

『源氏物語』葵の巻には、賀茂の新斎院の御禊行列における葵上と六条御息所の車争いをきっかけに、心が乱れていく六条御息所の姿が描かれています。教養があり、高貴で美しく、繊細で内向的な女性でありながら、その心とは裏腹に、生霊となつてしまふ六条御息所には、妖艶で凄惨なイメージがつきまといまふ。そのイメージを強く打ち出す作品の一



源氏物語絵巻紙帖 葵  
土佐光吉筆(京都国立博物館所蔵)

つが能(葵上)です。能では、懐妊し病床にある葵上を、舞台前方の一枚の小袖で象徴的に表現します。その葵上に襲いかかる六条御息所。破れ車に乗せて、幽界へと連れ去ろうとします。

今回の公演では、『源氏物語』から生まれた能(葵上)に関連する作品をご紹介します。取り上げるジャンルは、小唄、山田流箏曲、地歌です。地歌とともにご案内する京舞の魅力も見逃せません。各ジャンルの第一人者の皆さまによる素晴らしい実演を、どうぞ、お楽しみに。

文／野川美穂子

### 音楽でつづる文学5 源氏物語 —葵上と六条御息所—

小唄(夕顔)〈三つの車〉  
〔六条御息所〕  
山田流箏曲「葵の上」  
京舞「葵上」  
解説:野川美穂子

12/17  
土  
14:00

※公演開催についての最新情報は  
紀尾井ホールウェブサイトをご確認ください。

日本デビューのドヴガンとともに!

# トレヴァー・ピノック いよいよKCO首席指揮者登場

私たちのマエストロ、トレヴァー・ピノックが帰ってくる。紀尾井ホール室内管弦楽団(KCO)の定期演奏会で、幸福感をたたえたワーグナーの「ジークフリート牧歌」、美しい歌がこぼれるシューベルトの

交響曲第5番、それに鍵盤の詩人ショパンが若き日に紡いだピアノ協奏曲第2番を披露する。

今春、KCOの第3代首席指揮者に就任。管楽器の編成にも凝ったモーツァルト



© ヒダキトモコ

の交響曲名曲選を指揮する予定だったが、体調を崩しキャンセルとなった。ピンチヒッターとして指揮台に立ったのは、ピノックの信頼も篤いチェリスト、チェンバロ奏者のジヨナサン・コーエンで、ソリストの青木尚佳(ミュンヘン・フィルの新コンサートマスター)ともども拍手に包まれた。名匠トレヴァー・ピノックと、紀尾井ホールの付き合いは実は長い。時間の経過ばかりでなく、ホールの大切な場面で、多彩な楽の音を奏でてきた。

2001年にはヴァイオリンのレイチェル・ボツジャー、チェロのジヨナサン・マンソンを交えて室内楽を披露した。その3年後にKCO(当時は紀尾井シンフォニエッタ東京)の定期にデビュー。腕に覚えのある演奏家たちと私たち聴き手のアンコールの声に応え、2015年の創立20周年、2020年の創立25周年記念特別演奏会も指揮した。モーツァルトの交響曲第40番やレイエムの名演奏を思い出す方もいらつしやることだろう。

今年76歳。言わずと知れたバロック音楽のスペシャリストだが、先のモーツァルトが示すように、ピノックの得意分野は私たちが漠然と思い描く以上に広く、深い。近年はオペラやロマン派も嬉々として指揮。イタリアの古都の音楽祭も任された。

21世紀を迎える頃「彼はね、ジャズも素晴らしいんだよ」と話してくれたのは、サイモン・ラトルとパーヴォ・ヤルヴィだった。私がお話をしているNHKラジオ(音楽の泉)でも先日、ピノックのチェンバロによる少し懐かしい録音、プーランクの「田園のコンセル」(小澤征爾指揮ボストン響)をご紹介した。

長篇楽劇の主ワーグナーのかぐわしい「ジークフリート牧歌」に遅れなきよう。愛妻コジマの誕生日を祝い、幼い子供たちと暮らすルツェルン湖畔トリプシエンの私邸に響いた私小説的な名曲だ。

この牧歌、ピノックの十八番で、彼の喜ばしい音楽家人生をも映し出す。管弦に

名手を揃えたKCOと新首席指揮者トレヴァー・ピノックの交歓が待ち遠しい。

15歳のピアノリスト、アレクサンドラ・ドヴガンの登場に胸ときめく。すでにヨーロッパ有数の音楽祭に招かれ、61歳年上のピノックも惚れ込む才能だ。

メインは、19歳のシューベルトがモーツァルトの交響曲第40番への憧れを胸に秘めながら作曲したであろう佳品、交響曲第5番で、これはピノックにとっても紀尾井ホール室内管にとっても大切なレパートリー。前首席指揮者ライナー・ホーネックとの名演奏も紀尾井ホールの財産である。さあ今度はピノックのシューベルト愛がホールを満たす。

これほど心躍る、頬緩む首席指揮者「就任披露」公演があるだろうか。

開演が近づいてきた。

文/奥田佳道(音楽評論)

## 紀尾井ホール室内管弦楽団

### 第132回定期演奏会

【出演者】

トレヴァー・ピノック(指揮)  
アレクサンドラ・ドヴガン(ピアノ)

9/23  
金祝  
18:00

9/24  
土  
14:00

【曲目】

ワーグナー : ジークフリート牧歌 WWV 103  
ショパン : ピアノ協奏曲第2番へ短調 op.21  
シューベルト : 交響曲第5番変ロ長調 D485

※公演開催についての最新情報は

紀尾井ホールウェブサイトをご確認ください。



# 3 話をめぐる

クラシック音楽はよく聴くけれど、歌曲となるとちょっと……。そう感じておられる向きも多いのでは。でも、知らずにいるのはもったいない！ 歌曲の灯が消えませぬように。そんな思いから生まれたお話です。

## 1 口ずさむ人

あれは今から30年ほど前。北ドイツはブレメンの音楽ホール「デイ・グロッケ」で、バリトン歌手ヘルマン・プライがシューベルトの《夕映えに》を歌ったときのことだ。隣りに座っていた白髪のご婦人が、歌詞に合わせてそつと口を動かしているのを、私は見た。

汝が世の黄金色に輝くとき  
神よ、なんとそれは美しいことか！

背筋をぴんと伸ばし、舞台をまっすぐ注視し、声なく歌う。そのまぶしいほど美しい姿が、今も忘れられない。

この間、長い歳月が過ぎた。あの美しい老婦人も、もうこの世にはおられないだ

ろう。このカール・ゴットフリート・ラッベによる詩を、シューベルトの旋律を、彼女はいつ覚えたのだろうか？ 青春時代を過ごした戦時中だろうか？ それよりも前だろうか？ あるいは自身、歌い手だったのだろうか？ いずれにしても、歌曲を口ずさむ世代が、昔はたしかに存在していた。

## 2 歌曲消滅の危機？

そう、「昔は」である。ドイツは音楽の国だから、音楽好きはたくさんいて、そんな人たちはきつとドイツ歌曲を幾つもそらで歌えるに違いない——そう思いたいところだが、現実はいまやこれとは異なっている。

ひとつには、人々の愛好する音楽ジャンルが、この間ますます多様化した。クラシック人口の減少は、世界的現象だろう。しかし気になるのは、ドイツ人の音楽離れである。学校教育で、人手や時間が足りないという理由から真っ先に削られるのは、音楽の時間だという。ヴァイオリニストのアンネ・ゾフィー・ムターが、ベビーシッターを募る新聞広告に「歌を歌える人」と書いたら、応募が一つもなかったとか。求められているのは、もちろん、普通の歌なのに。これももう、かなり前の話だ。へんな理屈を言うようだが、もしもあなたが歌曲というものを、「知っている人」にしか分らない世界だから」と敬遠し

ているとすれば、もはやそうも言っていないのではないのでは？ 「知っている人」もやがてはいなくなり、歌曲がこの世から消滅してしまうかもしれないのだから。

## 3 大人だけの世界

歌曲の豊饒な世界に分け入るコツを、一つお伝えしよう。歌曲を、深遠で真面目なものと、むやみに思いこまないこと。これだけでも、味わいはぐんと増す。たとえば、シューマンの《詩人の恋》。なるほどこれは、恋に破れた男の苦悩を歌ったものであろう。しかし、第14曲の次のような詩句はどうか？

きみの目からはらりと落ちる  
真珠の涙のしずくちゃんたち

「涙」の比喩として「真珠」を置くなら、真珠の一語にとどめておくのが詩というもの。「真珠の涙」などというのは、ほんらい野暮なはずだ。しかもここは、それで終わらず、「真珠の涙のしずく」と野暮を重ね、あまつさえ「ちゃん」づけで締めくくっている。これはもう、意図された滑稽とみるほかあるまい。

そう、この詩を書いたハインリヒ・ハイネは、熱愛状態につきものの、ある種のぶざまを、チクリと揶揄しているのだ。そしてシューマンも、この2行にわざわざ異なる拍子をあてがって、「しずくちゃんたち」に至って



ロベルト・シューマン

はリタルダンドを付す。「ぶざま」を、しかと音楽化してみせるのだ。

こうしたあたりが、歌曲芸術の、大人なところ。子どもには分からない世界というの、あつていい。そんな世界がなくなってしまうたら？ どんなに淋しいことだろう。

文／船木篤也（音楽評論）

### 歌曲をめぐる紀尾井ホール公演

## 大西宇宙&小林道夫 デュオ・リサイタル

【出演者】  
大西宇宙（バリトン）、小林道夫（ピアノ）

【曲目】  
ベートーヴェン：遙かなる恋人に寄せて  
シェーンベルク：2つの歌曲 op.1  
シューマン：詩人の恋

10/5  
水  
19:00

※公演開催についての最新情報は  
紀尾井ホールウェブサイトをご確認ください。

# 紀尾井ホール室内管弦楽団 KCO名曲スペシャル ニューイヤー・コンサート2023に 小学生～18歳以下の皆さまをご招待!

今年度も文化庁子供文化芸術活動支援事業に  
採択されました

速報!

2023年の幕開けを、爽やかで親しみやすい素敵なオーケストラの音楽体験で始めてみませんか? 昨年11月、「ピョートル・アンデルシェフ スキ バッハ・リサイタル」に皆さまをご招待して、大好評を博した本事業を今年度も開催します!

**[公演日時] 2023年1月20日(金)開演19時・21日(土)・22日(日)ともに開演14時 / 紀尾井ホール**

出演 / ライナー・ホーネック (指揮・ヴァイオリン)

紀尾井ホール室内管弦楽団

曲目 / モーツァルト : 歌劇《魔笛》序曲

モーツァルト : ヴァイオリン協奏曲第1番

ヨハン・シュトラウスII世: ワルツ《レモンの花咲くところ》《南国のバラ》他 (詳細は紀尾井ホールウェブサイトで発表します。)



## 第32回 日本製鉄音楽賞 受賞記念コンサート 開催

映像  
配信中 無料

7月13日、3年ぶりにお客様をお招きして受賞記念コンサートが開催されました。前半は特別賞・広渡勲さんが半世紀を超える舞台制作現場でのエピソードを映像とともに話されました。中でもカルロス・クライバー(2004年没)とは1974年、トラブルで中断した演奏会の再開方法を相談したのが最初のお話。以後30年間親交を深められたそうです。後半はフレッシュアーティスト賞・佐藤晴真さんが瑞々しくそして力強い演奏を披露されました。最後に、「紀尾井ホールはご自身がデビュー・リサイタルを行った舞台でもあり音楽人生を開いたスタート地点。」と嬉しいお話もいただきました。



紀尾井ホール ステージにて



佐藤晴真さん(チェロ) 久末航さん(ピアノ)



大林奈津子さん(司会) 広渡 勲さん

紀尾井ホール  
YouTube  
チャンネル



## レ・ミルフォイユ・ドゥ・リベルテ 紀尾井町店

本誌表紙のお花をご提供

### 東京ガーデンテラス紀尾井町1F

永田町駅直結・東京ガーデンテラス紀尾井町内1Fにあるフラワーショップです。特別な日はもちろん、日々の暮らしを彩るお手伝いを。アレンジメントやブーケ、インテリアグリーン、フラワー雑貨などをご用意しています。装花や季節装飾、レストランウエディング、前撮りのご注文も承っていますので、お気軽にご相談ください。



### 特典

紀尾井ホールの当日チケット提示と  
3,300円(税込み)以上のお買い上げで  
季節のお花一本サービス!



営業時間 平日10:00~19:00 / 土日祝10:00~18:00

※営業時間は変更になる可能性があります。

お問合せ TEL.03-6380-8157

## 今号の表紙

### 『笹とケイトウ』

[協力]

花 / レ・ミルフォイユ・ドゥ・リベルテ紀尾井町店

「ケイトウ」は、花の形状が鶏のトサカに似ていることから「鶏頭」、それが植物名となりました。花房の先端が平たく帯状や扇状に大きく広がるためよく目立ちます。「笹」は雅楽で使われる管楽器。柔らかいオルガンのような音で和音も作れます。その直線的でスラリとした形状は「ケイトウ」と対照的。絶妙な組み合わせになりました。

## 紀尾井ホールにご支援いただいている企業および個人の方々です

### 紀尾井サポートシステム会員 (五十音順・「株式会社」等表記及び敬称略)

- 《特別協賛会員》日鉄ソリューションズ / 三菱商事 / 三菱地所  
 《みやび会員》伊藤忠商事 / 大島造船所 / KDDI / 商船三井 / 菅原 / 住友商事 / 日本郵船 / 丸紅 / 三井住友銀行 / 三井物産 / 三井不動産 / 三菱商事 / 三菱地所 / メタルワン ほか匿名2社  
 《ひびき会員》オカムラ / 高砂熱学工業 / 竹中工務店 / 東京きらぼしフィナンシャルグループ / 山下設計  
 《みどり会員》青鬼運送 / 赤坂維新號 / 今治造船 / ヴォートル / エーケーティ / NTTドコモ / 荏原冷熱システム / 鹿島建設 / ザ・キャピトルホテル 東急 / 三協 / 清水建設 / 上智大学 / 西武リアルティソリューションズ / 大成建設 / 千代田商事 / テイスト・ライフ / 東芝ライテック / 永田音響設計 / ニュー・オータニ / ハウス食品グループ本社 / パナソニック / 三井住友信託銀行 / 三菱UFJ銀行 / 三菱UFJ信託銀行 / 三菱UFJモルガン・スタンレー証券 / ミュージジョン / 明治座舞台 / ヤマハサウンドシステム / ワークショップ21  
 《おおい会員》青木陽介 / 浅見 恵 / 足立友子 / 石崎智代 / 磯部治生 / 伊藤眞理子 / 井上善雄 / 植竹浩樹 / 馬屋原貴行 / 大垣尚司 / 大久保なほ子 / 太田清史 / 大久みどり / 岡田章一 / 小川 保 / 小樽茂稔 / 片山國正 / 片山能輔 / 加藤巻恵 / 神谷昌孝 / 川口祥代 / 菊池恒雄 / 木谷 昭 / 久保祐子 / 栗山信子 / 河野紗妃 / 斎藤公善 / 坂詰貴司 / 佐久間庸行 / 佐部いく子 / 潮崎通康 / 清水 正 / 清水多美子 / 清水康子 / 白土英明 / 末岡明武 / 鈴木順一 / 鈴木 亮 / 高下謹彦 / 武上由佳 / 田中 進 / 外山雄三 / 内藤美奈子 / 中塚一雄 / 中西達郎 / 中村健司 / 名取正夫 / 西村勉美 / 西村 清 / 原田清朗 / 日原洋文 / 北條哲也 / 堀川将史 / 牧本恵美子 / 松枝 力 / 松本美恵 / 丸井正樹 / 簗輪永世 / 宮島正次 / 宮武悦子 / 宮原 薫 / 宮本信幸 / 陸田 実 / 村上喜代次 / 持留宗一郎 / 八木一夫 / 八木晶子 / 山内寿実 / 横手 聡 / 吉峯裕毅 / 渡辺弘次  
 ほか匿名36名 計203口 (2022年8月1日現在)

### 特別支援会員 (五十音順・「株式会社」等表記略)

- アステック入江 / 五十鈴 / NS建材薄板 / NSユナイテッド海運 / NSユナイテッド内航海運 / エヌエスリース / エヌテック / 王子製鉄 / 大阪製鐵 / 九條工業 / 草野産業 / 黒崎播磨 / 合同製鐵 / 小松ヤマト / 山九 / 産業振興 / 三晃金属工業 / サンユウ / 三洋海運 / 山陽特殊製鋼 / ジオスター / 新日本電工 / スガテック / 大同特殊鋼 / 大和製鐵 / 高砂製鐵 / 高田工業所 / 鶴見製鋼 / DNPエリオ / テツゲン / 東海鋼材工業 / 東邦シートフレーム / トピー工業 / 日亜鋼業 / 日鉄SGワイヤ / 日鉄エンジニアリング / 日鉄片倉鋼管 / 日鉄環境 / 日鉄ケミカル & マテリアル / 日鉄建材 / 日鉄鋼管 / 日鉄鋳業 / 日鉄工材 / 日鉄鋼線 / 日鉄鋼板 / 日鉄興和不動産 / 日鉄スチール / 日鉄ステンレス / 日鉄ステンレス鋼管 / 日鉄精圧品 / 日鉄精鋼 / 日鉄精密加工 / 日鉄総研 / 日鉄ソリューションズ / 日鉄テクノロジー / 日鉄テックスエンジニアリング / 日鉄ドラム / 日鉄物産 / 日鉄物流 / 日鉄物流津津 / 日鉄物流八幡 / 日鉄保険サービス / 日鉄ポルテン / 日鉄溶接工業 / 日本金属 / 日本触媒 / 濱田重工 / 富士製鋼センター / 不動テトラ / 幕張テクノガーデン / 三菱金属工業 / 三島光産 / 宮崎精鋼 / 吉川工業 / ワコースチール  
 日本製鉄 (2022年8月1日現在)



フォトレポート 最近の公演から ～ お客様アンケートより ～

6.16 (木)・6.17 (金) クアルテットの饗宴2022 エベーン弦楽四重奏団

- ホールの音響が素晴らしい、エベーンの演奏もノミスでプログラムも一捻りあり、とても楽しかったです！
- これは凄い、年間100以上のコンサートに行っていますが、年に1回巡り合えるかどうかの凄いコンサートでした。毎年コンスタントに招聘してください。
- 4人とも音色が最高でした！ また、初音の合わせ方が素晴らしいです！
- 想像を絶する演奏レベル
- またぜひ彼らの演奏を聴きたいです。



© ヒダキトモコ

6.24 (金) 音楽でつづる文学3 平家物語 一屋島一

- バラエティに富む演奏、舞で、とても面白かったです。解説があったので理解しやすく、よかったです。
- 琵琶、幸若舞、地歌と屋島にまつわる古典芸能を楽しめる貴重な機会でした。琵琶での語りを聞いたのは初めてで、とても面白かったです。幸若舞も大変楽しめました。地歌はとても迫力があり、お二人の掛け合いや熱気が絶妙でした。
- 「平家」の淡々と抑制された語りと調べ、「幸若舞」のひたすらな語り足拍子に、涙が止まらなかった。



© ヒダキトモコ

7.1 (金) 新 紀尾井素踊りの会 第三回 吾妻徳穂

- 初めて素踊りを観ましたが、お一人で人の感情や情景を表すこと、また唄や和楽器がぴったりと合わさっていて素晴らしいと思いました。
- 演目、構成とも大満足。吾妻徳穂さんの卓越した技能を最大限魅せていただいた。お囃子の息の合ったパフォーマンスも素晴らしかった。
- 今後とも舞踊、お囃子の良さを伝える機会を提供してほしい。
- 今藤長一郎の唄、稀音家祐介の音締め、それになんといっても徳穂の舞。



7.22 (金)・23 (土) 紀尾井ホール室内管弦楽団 第131回定期演奏会

- マナコルダの再登板を希望します。
- 池松さんのソロに驚嘆しました。コントラバスという楽器の魅力を最大限受け取りました。
- 池松さんが本当に素晴らしかったです。スコットランドにも出演されていて、KCOはこんなすごいソリストたちの集団なんだと再認識しました。
- 初めて聴いたトゥビンが面白かった。
- スコットランド交響曲が楽しみで公演を聴きました。颯爽さとキレがある演奏だけでなく、たっぷり歌うところもあり楽しませていただきました。



© ヒダキトモコ

公式 SNS で最新情報配信中



紀尾井ホール

チケットのお申込み

紀尾井ホールウェブチケット <https://kioihall.jp/tickets>



公益財団法人 日本製鉄文化財団

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町6番5号 TEL.03-5276-4500(代表) FAX.03-5276-4527 <https://kioihall.jp>

